

## こころのふるさとを、いつまでも大切に

記憶に残るいろいろのおもいで、振り返れば、明日への力に

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



「あの人についていきたい」といわれる  
一生使える「女性リーダー」の教科書

2015年 大和出版  
山本幸美 著

[800-2]

リーダー育成に取り組んでいる著者が、簡単に学べる教科書を著した。問題別に的を絞った項目で構成されていて、ほとんどが見開きで完結するように書かれている。重要な部分は太字で書いてあり、瞬時に復習が出来るので、プレッシャーを感じた時に開けば、安心が得られる。社内で味方をつくるための、相手のタイプ別対処法や、クレーム処理でも数字を上げることができる…など、重圧を感じずにリーダーが育つ工夫が満載されている。本書を読んで、女性リーダーとして幸せに大成したい。(さっと)



おかあさんが乳がんになったの

2007年 石風社  
アビゲイル&エイドリエン・アッカーマン 著・絵  
飼牛万里 訳

[2000]

お母さんが“がん”になったと知ったとき、アビゲイルとエイドリエン姉妹は「これからどうなっていくのか？」を書いた本を探しましたが、見つかりません。そこで自分たちが本を書くことにしました。明るいタッチの絵と素直な文で描かれていて、闘病生活をみんなで助け合って、楽しいことも見つけながら過ごしたようすが伝わってきます。二人はこの体験を通して、家族がより強い絆で結ばれたのだと感じました。愛する人が“がん”になったときにも「君は一人じゃないのだよ」と教えてくれる絵本です。(ルナ)



女の子は  
サンタクロースになれないの？

1991年 国土社  
エルフィー・ドネリ 著  
津尾美智子 絵 遠山明子 訳

[2000]

クリスマスの森に住むサンタクロースの一家。パパサンタは今年のクリスマスに、10歳の男の子をサンタデビューさせる予定。でも、物静かな彼はサンタにはなりたくないのです。かたや、同年代の活発な女の子はサンタになりたくて仕方ありません。頑固なパパ、「昔からサンタは男と決まっておるのだ！」ですって。そこで二人は身代わり計画を立てました。変装バッチリ。で、どうなるの？もちろん成功！男の子も女の子も自分にふさわしい生き方を見つけるこの物語、実は26年も前に書かれていたのですよ。(みっと)



空飛ぶおばあさん

—しあわせぼけの話—

2000年 本の泉社  
草川八重子 著

[1000-2]

認知症になったお母さん(勝子さん)を1年9ヶ月介護する著者は、「母と密度の濃い時間を持てたことは幸せ」と、母の認知症期間に感謝する。この期間の母はどんなことでも喜びに受取り、「澁刺とした自由人」であった。夫と幸せに暮らしている著者、母の心残りであったその妹も結婚、伯父夫婦にも孫が誕生…と、母はすべてを幸せに解決していった。病院から毎晩9時になると気球で家に帰っているつもり。そんな母との心温まる物語。～本書は、認知症が痴呆症と呼ばれていた頃の作品です。～(かかし)